



地元の伝統技術を体験

宮地手漉き和紙で卒業証書作り



▲真剣に取り組む児童

1月10日、宮地小学校で紙漉き体験が行われ、同校の6年生20人が卒業証書用の宮地手漉き和紙を作りました。これは約400年前から伝わる宮地手漉き和紙の技術を後世に伝えようと、約30年前から毎年行われています。児童たちは現在唯一の宮地手漉き和紙職人の矢壁政幸さんから指導を受け、水温9℃の冷たさに耐えながら丁寧に紙を漉きました。黒木颯斗さんは「前後に揺らすことを意識して作った。完成が楽しみ」と話しました。

大切に使います

体育館緞帳贈呈式



▲感謝状を受け取る増田さん

1月8日、千丁小学校で体育館緞帳の贈呈式が行われ、全校生徒433人が参加しました。これは同校体育館のステージ緞帳に傷がついていることを千丁町出身の田口武さんが気にかけて、寄付したものです。式では「千丁を思う気持ちを忘れずに成長してほしい」と代理人の増田國夫さんが田口さんのメッセージを伝えると、生徒を代表して井島里穂さん（6年生）と野辺明花里さん（6年生）は「立派な緞帳をありがとうございました」と感謝を述べました。

プロ野球選手ってすごいな

西浦颯大選手が鏡第二保育園に来園



▲プロ野球選手の球の速さに驚く子どもたち

1月8日、プロ野球オリックスバファローズで活躍する西浦颯大選手（鏡町出身）が鏡第二保育園を訪れ、園児と触れ合いました。西浦選手が素振りやキャッチボールを披露すると、バットスイングやボールのスピードに子どもたちは声をあげて驚きました。西浦選手が「今シーズンはホームランを10本打ちたい」と宣言すると、子どもたちは西浦選手の応援歌を歌って後押ししました。西浦選手は「子どもたちはみんな元気がよく、私もパワーをもらいました」と話しました。

八代圏唯一の結核患者病室

結核患者収容モデル病室の稼働開始



▲テープカットを行う猪股院長（右）

12月24日、熊本労災病院に結核患者収容モデル病室2床が完成し、テープカット式が行われました。同病院は八代市立病院の結核医療機能を引き継ぎ、八代圏域では唯一の結核患者病室になります。病室はトイレ、シャワー完備の個室で独立の換気システムや室内の空気が外に流れ出ないよう気圧を低くする設備により、感染を防ぎます。猪股裕紀洋院長は「地域の病院として果たすべき一端を担いたい」と話しました。

北海市と友好深める

八代市青少年友好派遣団出発式



▲派遣団の皆さんと中村市長

12月17日、八代市の友好都市である中国・北海市に派遣される生徒たちの出発式が市役所鏡支所で行われました。派遣団は市内の中学生や高校生8人に市関係者を含めた13人。現地ではホームステイをしながらホストファミリーとの交流、学校訪問、文化交流などを行い、22日に帰国しました。出発式では堀田康平さん（八代高校2年）が「中国の生活様式や歴史、文化などを学び、体験したことを周りの人たちに伝えたい」と抱負を述べました。

しっかりと学んでいきます

タイへ農業研修



▲報告に訪れた本田さん（右から2番目）

12月16日、本田りくとさん（八代農業高校2年）が市役所鏡支所を訪れ、タイへ農業研修に行くことを中村博生市長に報告しました。本田さんは文部科学省の官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」日本代表プログラム（高校生コース）に応募。12月18日から1月6日までタイの谷口農場で南国フルーツの栽培を学びました。将来は、地元日奈久で農業をしたいという本田さんは「タイの農業技術を学んで知識を積み上げたい」と目標を語りました。

気軽に英語を楽しむ

国際交流員デニスさんの英会話講座



▲流暢な日本語も交えながら説明するデニスさん

1月12日、やつしろハーモニーホールで「国際交流員デニスさんの英会話講座」が行われ、市民25人が参加しました。この講座は、国際課に勤務するジョセフィン・シャノン・デニスさんを講師に、市民に気軽に英語に親しんでもらい、英語でのコミュニケーション能力向上を目的に開催されました。同日は、デニスさんの出身地であるアメリカ・バージニア州の文化やアメリカ現代事情の説明、グループでのフリートークなど、参加者は英語を使って楽しい時間を過ごしました。

ものづくりは楽しいな

第23回こども科学フェア



▲ものづくりを楽しむ子どもたち

1月12日、やつしろハーモニーホールで「第23回こども科学フェア」が行われ、約2200人の親子連れなどが来場しました。子どもたちは、ロボットの操縦体験や木工・板金体験など、たくさんの科学やものづくりを体験しました。また、こども警察、こども新聞など、仕事を体験できる「こどものまち@フレシー」が初めて開催。お菓子づくりを体験した山下瑛真さん（宮地小3年）は「自分で全部作れるところが楽しかった」と話しました。

決意を胸に令和に飛躍

令和2年八代市成人式



▲笑顔で記念撮影

1月12日、令和2年八代市成人式が八代トヨオカ地建アリーナ（総合体育館）で開催され、新成人1073人（男483人、女590人）が大人の仲間入りを果たしました。式では、中村博生市長が「一つ一つの努力の積み重ねが、いつか大きな実を結びます」と話すと、新成人を代表して古嶋晏奈さんは「社会に貢献し、立派な社会人として頑張りたい」と決意を述べました。会場では振り袖やスーツ姿の若者たちが、久しぶりに再会する同級生と写真を撮ったり、話に花を咲かせたりしました。

春節商戦に売り込む

香港向けバンペイユ輸出出発式



▲バンペイユを積み込む中村市長

1月7日、JAやつしろ八代果実選果場で香港へ向けたバンペイユの輸出出発式が行われ、関係者約80人が出席しました。式では、イオン九州熊本・鹿児島事業部の田中実部長が「生産者と協力しながら販路を拡大し地域に貢献したい」とあいさつ。中村博生市長、藤本一臣水川町長らが箱詰めしたバンペイユをトラックに積み込むと、関係者は手を振って出発を見送りました。出荷されたバンペイユは、イオンストアーズ香港で16日から30日まで販売されました。

泉町の魅力をPR

「いずみの宝」PRパネル展



▲泉町の魅力をPRする生徒ら

12月26日、JR新八代駅構内で八代農業高校泉分校の生徒6人が、実習で制作した桜の木の箸置きと泉町観光パンフレットを同駅利用者配布しました。これは、泉町観光協会が新八代駅利用者へ泉町の魅力を知ってもらい集客につなげようと、泉町の魅力を紹介するパネル展を同駅で開催するために併せて行ったもの。また、当日は県の天然記念物「久連子鶏」の展示も行われました。同校の南田伶美さん（2年）は「ぜひ多くの人に泉町に来てほしい」と話しました。

八代駅前の活性化に尽力

道守くまもと世話人が市長表敬



▲報告に訪れた岡田さん（右）

12月25日、道守くまもと世話人の岡田敏代さんが市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に功労者表彰受賞の報告を行いました。道守とは、各地域において道の清掃や花植えなどの美化活動やイベントなどの地域活動を行う企業や個人です。道守九州会議が主催する、みちづくりin佐世保2019において、岡田さんは八代駅前の美化活動やにぎわいづくりに長年尽力した功績が評価されました。岡田さんは「八代が好きだから長年続けられた」とこれまでの活動を振り返りました。